

「大学コンソーシアム京都 第14回FDフォーラム」

場所：龍谷大学

期間：2月28日(土)～3月1日(日)

1. 研修の内容

財団法人大学コンソーシアム京都主催の2008年度14回FDフォーラム(龍谷大学、2009年2月28日・3月1日)に参加させていただきました。テーマは「学生が身につけるべき力とは何か一個性ある学士過程教育の創造」でございました。

土曜日28日のシンポジウムは立命館大学共通教育推進機構教授木野茂先生の司会のもとに山形大学学長結城章夫先生、金沢工業大学学長石川憲一先生、京都大学高等教育研究開発推進センター長田中每実先生がシンポジストとなって行われました。わたくしは結城先生が最初になさいましたご報告は聞き逃したのですが、御報告書とその後のお話により内容をあらまし吸収させていただきました。

結城先生は文部官僚として山形大学の学長に赴任され、結城プランを発表し大学改革を行われておられるお方でいらっしゃいます。その大きな改革の一つは教養教育を1年に縮め、2年生から専門課程に入るようにしたことでした。

大学改革の先駆的存在の石川先生はPDCAサイクルを活用して教師が学生の学習履歴を管理して問題があり次第学生に助言を与えるというものでした。

このお二方の先生に対して田中先生が問題提起をなさいました。大学設置認可に至る過程で教養教育は軽視すべきものとは見なされていないこと、またPDCAサイクルに関してはそれによって問題が見出された学生の場合、それは矯正すべき問題ではなく、発展させて行くべき創造的問題であるケースもあることが指摘されました。

またFD活動を他大学と共同して行う動きがあるが、その場合も統一的な規格ではかえって個々の大学の事情に対応しきれないことが問題として挙げられるというお話でございました。

またお話の中ではあまり出なかった印象ですが、山形大学では1年次に山形について学ぶ授業を設けてあります。愛知大学でも大学史の授業はありますが、豊橋学の授業はありません。京都新聞3月1日朝刊1面の「ソフィア京都新聞文化会議」の欄にて同志社大学副学長の西村卓先生が『『学士力の』の養成 地域ぐるみで』という文章をお書きになっておられ、「大学は・・・卒業を見据えたキャリア形成のための方策の・・・一つとして、大学を取り巻く地域の『力』を活用しようという動きが、正課外を問わず大学教育の大きな流れとなりつつある。」と書いておられ、事例を挙げておられました。地域に貢献する大学として豊橋の歴史と風土、現状を知る授業を設けることは出来ないかと思ったことでした。

翌日の日曜日1日の分科会では第4分科会「教養・文化教育としての外国語教育」に出席させていただきました。ドイツ語、中国語、フランス語、スペイン語を教えておられる先生が現場からのご意見を発表なさいました。それぞれに有意義なご報告でありましたが、京都大学大学院人間・環境研究科の西山教行先生のご報告を興味深く拝聴させていただきました。外国語教育の中で英語の比重が日増しに増加している昨今ですが、日本における言語環境は複数の外国籍の人々の増加につれ、多言語空間化しており、今や英語教育のみによってはこれに対応しきれないこと、その意味でいわゆる第二外国語の需要は増加しており、大学における未修外国語教育の重要性は現実には高まっているということでした。大学における未修外国語教育の充実は今後全国的に展開されなければならない現実を知らされ有意義でした。

以上、他に多くのことを学ばせていただきましたが、これらが特に心に残りましたのでご報告申し上げます。

## 2. 研修の成果

報告と重なりますので、箇条書きにさせていただきます。

- ・ PDCA サイクルの内容と実施状況等について知ることが出来ました。
- ・ グローバル化の進展する今日の日本において大学における未修外国語教育の必要性への認識を新たにさせられました。
- ・ 地域に貢献する大学として地域学をカリキュラム化することの必要性について学ばせていくことが出来ました。

以 上

## 3. 授業への研修成果の反映状況

| 学 部 長 | F D 委員 長 | F D 委 員 会 | 企 画 ・ 広 報 課 長 | 係 |
|-------|----------|-----------|---------------|---|
|       |          |           |               |   |